

【神奈川区】令和3年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年9月7日 9時59分 ～ 11時14分
場 所	神奈川区役所 本館5階大会議室
出席者	<p>【座長】小松 範昭 議員</p> <p>【議員：4名】藤代 哲夫 議員、中山 大輔 議員、竹内 康洋 議員、宇佐美 さやか 議員</p> <p>【神奈川区：22名】日比野 政芳 区長、寒河江 周一 副区長、星野 雅明 災害対策担当部長、本間 睦 福祉保健センター長、堀 敏彦 福祉保健センター担当部長、赤松 智子 医務担当部長、西嶋 祐一 神奈川土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和2年度 神奈川区個性ある区づくり推進費決算状況について</p> <p>2 令和3年度 神奈川区個性ある区づくり推進費執行状況について</p> <p>3 令和4年度 神奈川区区づくり予算編成にあたっての留意点について</p>
発言の要旨	<p>【議題1】</p> <p>宇佐美議員：33頁「まちの魅力向上事業」の「イ 小学校跡地利用検討事業」だが、菅田小学校と池上小学校が統合したことによる菅田小学校の跡地について、関係局との情報共有を行ったとあるが、どのような情報を共有したのか。</p> <p>谷口区政推進課長：後利用のガイドラインを定めている財政局の資産経営課や所管局である教育委員会と、後利用の検討を始める時期や情報収集等、学校はまだ使用していますので、今後のスケジュールについて共有しました。</p> <p>宇佐美議員：学校規模適正化等検討部会が終わって、跡地利用の検討会も開かれたはずだが、参加された地域の方々との情報共有ではなく、庁内の情報共有なのか。</p> <p>谷口区政推進課長：そうです。</p>

宇佐美議員：区民の方が検討されたことについて、局との打ち合わせが始まるということか。

谷口区政推進課長：令和元年度に地域の方の検討会を進めさせていただき、令和2年3月に提言をいただきまして、跡地の所管局である教育委員会に伝えました。この提言を受けて庁内の検討会を立ち上げ、これから検討をスタートすることになります。

宇佐美議員：跡地利用の検討会についてはニュースを1回発行されているが、地域の方々で行う検討会は終わったという考え方か。

谷口区政推進課長：地域との検討会は終了し、提言をいただきましたので、今後の開催予定はありません。

宇佐美議員：今後の地域の意見はどう聞いていくのか。

谷口区政推進課長：地域の方々に広くお声がけをして開催した検討会ですので、いただいたご意見をしっかりと受け止めていきたいと思えます。その後の社会状況の変化で、また違うご意見があれば把握し、検討会の中に反映させていくかどうかは改めて検討していく必要があると考えますので、意見を受け付けないということはありません。

宇佐美議員：地域から学校がなくなることに反対された方々のご意見です。地域の声を大事にして欲しい。

【議題2】

宇佐美議員：11頁「交通安全対策事業」の「ウ 児童通学路整備事業」だが、神奈川区の通学路のブロック塀対策はどこまで進んでいるのか。

谷口区政推進課長：通学路のブロック塀対策については、所管の建築局建築防災課に確認して報告します。

宇佐美議員：ぜひ、区でも把握をしておいてください。

菅田小学校、池上小学校の合併による通学路の安全対策はどこまで進んでいるのか。

宮本神奈川土木事務所副所長：菅田小学校、池上小学校の合併による通学路の安全対策については、すべての地権者の方と用地交渉を進めており、道路局建設課が買収の費用を算定しているところです。

宇佐美議員：1日も早く整備して欲しい。

15頁「かながわ安心子育て支援事業」の「ア 児童虐待防止対策事業」だが、虐待の相談件数は増えているのか。

岡こども家庭支援課長：子どもの家庭支援相談は、昨年度から全体の相談は増えていますが、虐待の相談件数だけ見ると昨年度と同じくらいです。養育が心配なお子さんやご不安の強いお母様といった継続的な支援が必要な方は増えています。家庭訪問や電話対応などで積極的に関わるようにしています。

宇佐美議員：気付いてあげられるかどうか、お子さんの発育にかかわる。市の職員の力が大事だし、職員のスキルアップをしているとのことなので、ぜひ寄り添って欲しい。

子どもだけではなく、大人の引きこもりの対応はしているのか。

野田高齢・障害支援課長：電話などの相談やご家族の相談に対応しています。

宇佐美議員：相談の機会があるということを知らせることも大事なので、表に出たら寄り添ってくれる人がいるとアピールをして欲しい。

保育所の人気にばらつきがあり、駅から離れたところなどは定員割れしていると聞いている。神奈川区の状況はどうか。

本間福祉保健センター長：反町、片倉などの地域で人気の保育所がある一方で、それ以外の地域で定員割れしている保育所があります。また、3歳児以上の枠が空いている所があります。

宇佐美議員：需要と供給を見極めて整備して行って欲しい。

保育所だけではなく、学童保育や放課後キッズクラブでも密対策が大変だと聞いている。声は届いているか。

本間福祉保健センター長：学童保育については様々な法人あるいは団体があり、運営・経営的な問題があると聞いています。直接個別に、学童保育や放課後キッズクラブにお話し、研修等を実施しています。

宇佐美議員：コロナ対策での研修か、経営の研修か。

本間福祉保健センター長：経営の研修も行っておりますが、コロナ対策に関しては、感染者が判明した所に直接指導を行っています。

宇佐美議員：学童保育や放課後キッズクラブでクラスターが発生したという事例は聞いていないが、保育所等で休園しているところもあり、区役所が寄り添うことで、区民の皆さんが安心して過ごせる。大変な状況だが、引き続き区民に寄り添って欲しい。

羽沢横浜国大駅前のバス停あたりにかかっている跨線人道橋の風よけのボードについて、車から人が、人から車が見えない状況と聞いている。どこが管理しているのか。

宮本神奈川土木事務所副所長：跨線人道橋については土木事務所で管理しています。

宇佐美議員：風よけのボードをクリアボードにするか撤去できないか。

宮本神奈川土木事務所副所長：下の道や線路への投下防止を兼ねているほか、住居が見えないようにとの配慮もありますので、撤去は難しいのですが、現地確認をしてから対応策を考えます。

宇佐美議員：周りに民家はなく、線路にはものを投げられない状況だと思うので、現場を確認し対策をして欲しい。

藤代議員：36頁「神奈川区民まつり事業」について、オンライン開催とな

り、8月30日と9月4日に説明会を開催したと聞いたが、どのくらいの参加があったのか。

安達地域振興課長：両日で6団体です。

藤代議員：自治会町内会の参加はあったのか。団体とはどのような団体ことか。

安達地域振興課長：説明会にご参加いただいた団体は、町内会等の団体ではなく、キャラクターを作っている団体や公益的な活動をしている団体です。自治会町内会には実行委員会から別途説明をしています。

藤代議員：「神奈川区民まつり」は、例年反町公園で開催しており、今まで積極的に参加している自治会町内会や団体もあれば、参加したことのない方々もいる。来年は反町公園で開催できるという希望的観測を持ちつつ、コロナ対策としてオンライン開催を行うのであれば、この機会に幅広く区民の方にお声がけして、多くの方々に参加していただくように働きかけて欲しい。

37頁「まちづくり推進事業」の「持続可能な団地再生検討事業」について、現在はどのような状況か。

谷口区政推進課長：持続可能な団地再生検討事業につきましては、西菅田団地をモデルとして取り組んでいます。状況としては新型コロナウイルス感染拡大によりスピードが落ちています。6月に、関係者、周辺の施設や町内会の皆様と移動支援についての検討会を開き、出来ることや必要なことについての意見交換を行いました。その後、感染拡大を受けまして検討が止まっていましたが、9月中に、どのようなルートがいいか、どこに停留所を置くと使いやすいかについて、地域の方と現場を見て回る予定です。

藤代議員：西菅田団地にお住まいの方々、近隣施設、福祉施設の方々のどこかに負担が掛からないように進めて欲しい。お互いが協力して進めていくことが必要であり、ぜひ区役所が間に入ってコントロールを行い、周辺施設とも情報共有し、このような状況下ではあるので、段階的で結構なので

取組を進めて欲しい。

竹内議員：菅田から直接、羽沢横浜国大駅へのバス路線の要望があり、西菅田団地の団地再生の視点に加えて、地域交通が必要だと考える。様々な地域交通について政策局も体系づくりをする計画を進めている。旭区の若葉台ではオンデマンドで事業者と協力していたり、群馬ではA Iで福祉ムーバーとあって、福祉施設の車が700台位の中から最寄りの車が来てくれる制度がある。公共交通に限らず、地域で取組をするうえで民間との協力、例えば横浜国立大学と協力する等、神奈川区として政策的に考える視点はあるのか。

谷口区政推進課長：そのような視点は必要だと考えています。神奈川区の中で羽沢、菅田の丘陵部については、交通不便や高齢化が進んでいる一方で、羽沢横浜国大駅が開業し、令和4年度中には相鉄・東急直通線が開通する予定であり、開発も含めて期待の高まっているエリアでもあります。横浜国立大学や福祉施設などの住民以外の担い手の方がいる地域でもあり、地域の強み弱みをしっかりとつかんで、検討していきたいと考えています。例えば、バス事業者にバス便の増強を要望していくこと以外にも、地域の方々や事業者と連携して別の交通手段を作っていくことも必要だと、力を入れていきたいと考えています。

竹内議員：エリアもですが、選挙で投票所へ行くのも大変だとか、山坂がある横浜市の地形から考えると、家までのラストワンマイルが課題となる。京急が金沢区でゴルフカートの実証実験をしているが、様々な民間の提案も含めて、地域に呼び込むような、繋げていく形で区としてやって欲しい。実証実験だけでもいいので、改善していく、担い手が増えていくことが大切で、膨らませて行って欲しい。

中山議員：9頁「地域防災力向上事業」の「オ 福祉避難所関連事業」で、新型コロナウイルス感染症対策に係る必要物品の配備は、各施設の意向を踏まえて配備したとのことだが、具体的に何を配備し、いくらかかったのか。

野田高齢・障害支援課長：施設にアンケートをとり、アルコールタオル、

アルコール消毒液、マスク、ビニール手袋、蓋つきゴミ箱を6月に配備しました。福祉避難所の物品配備にかかりました金額は437,501円です。

中山議員：36頁「民生委員・児童委員活動支援事業」の民生委員活動に使用する物品とは何か。

大友福祉保健課長：民生委員の方々が訪問にあたって不安がないようにと、マスクや消毒液を購入しています。

中山議員：特別なものを配布したということではないのか。

大友福祉保健課長：一般的に訪問活動に必要な物品を配布しました。

中山議員：37頁「まちづくり推進事業」の「ウ 企画調整事業」で行う外国人の調査は、区としてどのような施策を展開することを想定しているのか。

谷口区政推進課長：外国人の状況調査ですが、新型コロナウイルス感染症に係る給付金などで区役所、社会福祉協議会の窓口によくの外国籍の方々が相談にいらっしゃいましたが、手続き方法など理解していただくのが難しかったということがありましたので、テーマとして設定いたしました。支援団体へのヒアリングや現在準備している外国籍の方へのアンケート調査を行い、まとめたうえで、区役所の中で検討している神奈川区の国際交流ラウンジの設置に向けた検討に生かしていきたいと考えています。

安達地域振興課長：外国籍の方々の支援活動をされている団体にご意見をいただきながら、神奈川区未設置である国際交流ラウンジ設置に向けて検討を進めているところです。

中山議員：国際交流ラウンジについては、以前から設置して欲しいと要望が上がっていたと思う。設置場所を含め、調査の結果を活かして進めて欲しい。

【議題3】

藤代議員：神奈川区の人口は24～25万人で、これからも7～8年は人口が増え続けていくというのも大事な視点。高齢化が進みつつも、子育て世代の流入があり子育て支援を充実させなければならない。人口増加は神奈川区の特徴であると言えるが、区長の考えはどうか。

区長：国勢調査でも神奈川区は人口の増加が見て取れます。横浜市18区の中でも、神奈川区は活気のあるまち、市民の方から選ばれるまちだということ、神奈川の魅力がますます大きくなっているということだと思えます。区西部では新たなまちづくりもはじまり、商業、工業、教育それぞれの面におきまして、区民の皆様や事業者の皆様に頑張ってもらっています。様々な方のご意見を伺いながら区の魅力をさらに高める事業を企画し進めていきたいと思えます。

藤代議員：その視点で、いままでもやってきたと思うが、これからも進めて欲しい。全市的に見たときに神奈川区の個性という視点も大事だと思う。引き続き、施策ごとに情報を共有して欲しい。

竹内議員：来年度の予算編成にあたっての留意点で、「地域の関係性の希薄化するなか」とあるが、見えないところという視点がある。確認ですが、医療体制の中で自宅療養されている方がいる。様々な医療体系の仕組みが県と横浜市であるが、区では自宅療養されている方を掌握できるシステムになっているのか。

赤松医務担当部長：療養に関しては県全体で「チーム」という自宅療養者の健康管理をするシステムがあります。県がメインですが、福祉保健センターの担当者も同時に観察していきまして、患者数が増えたときに区でも補足して、速やかに医療機関に繋げるなど、二重で健康観察を行っています。

竹内議員：連携をとって進めているということですね。また、医療的な視点とは別に、感染した場合には外部との接触しない生活で、例えば仕事に行くこともできない日給の方などは日常生活にも困るが、相談体制はどうなっているのか。

本間健康福祉センター長 感染された方のご家族を含めた生活の支援ですが、感染している最中は難しいところではありますが、こども家庭支援課、高齢・障害支援課、生活支援課と情報共有しながら対応していき、その後も状況に応じまして個別に支援していく仕組みはできています。

竹内議員：生活資金や家賃支援制度、特別な借り入れ等の社協へつなぐ制度は整っているかもしれないが、具合が悪くて食事も作れない、届けなければ食べるものがない状況など、共助までつながらない、見えないのが自宅療養だと思う。声を上げてもらう必要はあるし、受け取る姿勢も必要だが、「大変な時には遠慮なく言ってください。」と伝えないと、どこに相談していいかわからない状況だと思う。今までと違って、見えないところがより多くあるという視点を欠かさずに持って欲しい。来年度の予算編成のみならず、今年度事業でもその視点を持って欲しい。

宇佐美議員：「共助」という取り組みがあり、ほっとした。一番大事なのは「共助」、助けてくれるところがあるというのが大切。藤代先生が人口は増えていると言っていたが、生産年齢人口が減らないような施策をして欲しい。大事な施策に税金を使ってもらいたい。私たちもその視点で審議をしていきたい。

備 考